

ノルウェー政府も警告・高レベル廃液の放出事故

ノルウェー放射線防護局報告書 2009.3.23発行

「セラフィールドの仮想事故によるノルウェーへの影響 放射能放出の可能性-移送とフォールアウト」

Consequences in Norway of a hypothetical accident at Sellafield:

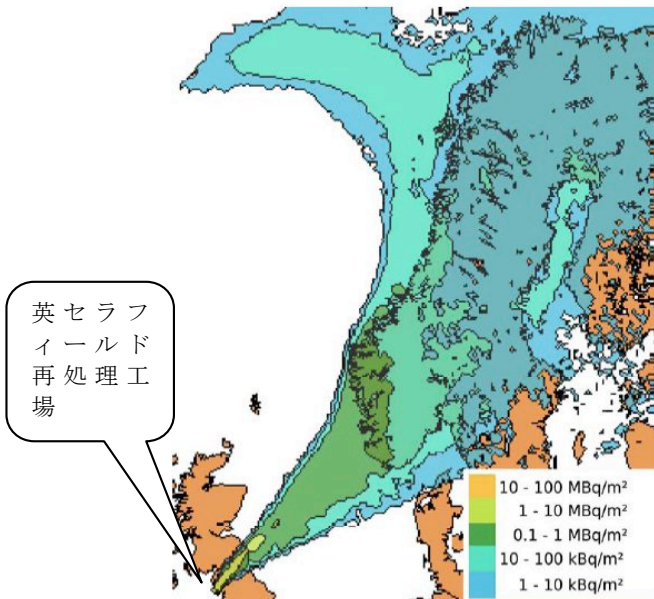
Potential release – transport and fallout

概要

このレポートはセラフィールドのB215工場に貯蔵されている高レベル放射性廃液（HAL）が仮想事故が起こった場合、放射能の移動と降下について最悪のシナリオに焦点を合わせ調べたものである。シナリオでは貯蔵されている高レベル廃液の0.1-10%が大気中へ放出された場合、セシウム137の移送とフォールアウトに限り影響をシミュレートしたものである。その結果ノルウェーではチェルノブイリ事故の際に最も汚染されたエリアの0.1-50倍の汚染が想定される結果になった。

Norwegian Radiation Protection Authority ノルウェー放射線防護局

六ヶ所再処理工場現在
240m³溜まっています。
2009.6

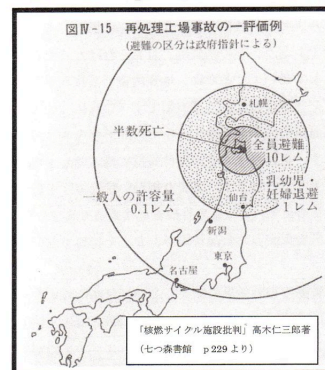


Figur 4.2: Fallout of ¹³⁷Cs (Bq/m²) 48 hours after a worst case accident releasing 1 % of the assumed ¹³⁷Cs inventory from the HASTs at Sellafield².

セラフィールド貯蔵の高レベル廃液が1%漏れた場合の影響セシウム137のフォールアウト濃度

40kBq/m² 以上が日本国内の放射線管理区域に相当します。ノルウェーの1/3が管理区域になってしまいます。(わずか1%放出で) 10%放出では西海岸は人の住めない地になってしまいます。

再処理工場で高レベル廃液が漏れると



「高レベル廃液100m³を含むタンクが破壊され、その内蔵放射能の1%が外部に放出されたとき」の事故評価例です。

2008年8月末現在、六ヶ所再処理工場には約210m³の高レベル放射性廃液がガラス固化されずに溜まっています。(最大で680m³貯蔵できます) **高レベル廃液は絶えず冷却しなければ、約15時間と沸騰すると**言われています。地震で冷却機能が喪失した場合、**どうなるのでしょうか。**現在日本原燃に質問を提出中。再処理をしている多くの国は地震がありません。日本は世界一の地震国なのです。

六ヶ所再処理工場の廃液放出のシミュレーション 高木仁三郎博士評価

我が国政府もシミュレーションを実施し公表すべきです。

当会のHP（再処理・岩手の環境）の「基本的な参考資料表」の末尾に原文と当会翻訳文とを掲載しました。